

平成21年12月1日

第69号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rirya.maff.go.jp/kanto/>



鬼ヶ岩から丹沢山塊（蛭ヶ岳）を望む（神奈川県山北町）

（撮影者：東京神奈川森林管理署 奥村 忠充）

美しい森林づくり

治山事業における新工法の導入について

森林整備部 治山課

私の視点

「国民の癒しの森づくり」に一役

草津森林療法協議会会長 山口 昭夫 氏

美しい森林づくり

治山事業における新工法の導入について

森林整備部 治山課

当局管内の静岡県及び山梨県にかけては、糸魚川静岡構造線及び中央構造線の影響を強く受け、地形は急峻で地質も断層破碎帯により脆弱で崩壊しやすい地層となっており、数多くの崩壊が発生しています。このため、崩壊発生源の復旧等に当たっては、従前より総合的な治山施設の整備を進めてきました。

この地域において過去に施工した工事を検証した場合に、特に重要な工種として山腹崩壊地における法切工が挙げられます。

過去の事例では、施工当初は山腹が安定・緑化し、成功したかのように見えるものであっても、10年20年と経年していくうちに、降雨による浸食、凍結融解等の影響を受け前述の地質特性もあり山腹頭部より再崩壊する場合が多く見受けられます。

この原因の一つとして、従来は一般的に人力により法切工が行われており、急傾斜地での作業ということもあり多くの時間を要すること、ま



高所法面掘削機の作業状況 1

た、足場が悪く上下作業が出来ないため、同一施工地内で複数箇所の作業が困難であることなどにより、自ずと法切量が限られたものになるため、源頭部が安定する地山までの法切が難しかったことが挙げられます。このような背景と近年の技術開発の進展より、このような場所においても作業が可能な高所法面掘削機

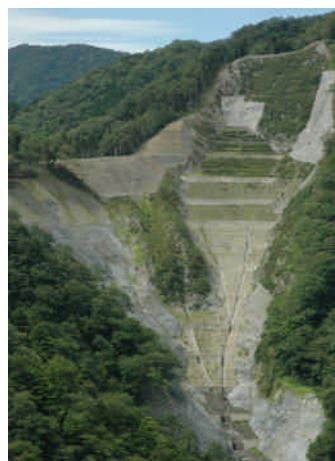
(RCM・ロッククライミングマシン)が開発され、機械施工による法切等、新工法の導入が進んでいます。高所法面掘削機とは、従来のバックホウにウインチを搭載し、上部にアンカーを設置してワイヤーロープで機械を支え、常に水平を維持できるように旋回装置と走行装置との間に特殊なりフティング機能を設けた機械であり、急傾斜での斜面作業を可能としています。

また、危険箇所での作業が安全に行えるよう、ラジオコントロールによる遠隔操作も可能になっています。人力作業に比べ施工期間も大幅に短縮しつつ、安全に崩壊面を安定勾配するまで切り込むことが出来るようになったことで、法面の状態に応

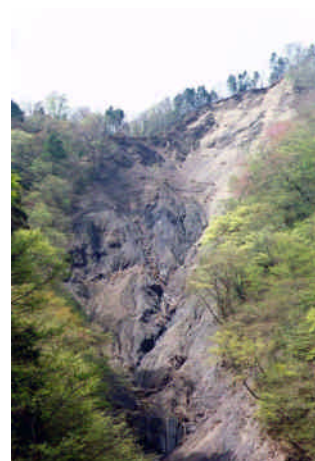


高所法面掘削機の作業状況 2

じた工種工法の選択肢が広がり、再崩壊を起こす危険性を大幅に減らせるようになりました。機械による施工を行うことで作業の安全性の向上、施工コスト及び施工期間の圧縮を図るとともに、経年による再崩落の減少により、今後のライフサイクルコストの縮減に資するものと考えています。公共事業を取り巻く情勢は年々厳しくなっています。国民の期待に応えられるよう、より安全に、より安価で高品質な施工を行うことを念頭に置き、今後も新工法の導入に積極的に取り組んでいきたいと考えています。



復旧した大規模崩壊地



大規模崩壊地

赤谷プロジェクト 近況報告

JICA国別研修・インド環境森林省



JICA研修生を迎えて

11月9日(月)、JICAの国別研修でインド環境森林省森林保全局、森林教育委員会、森林管理中央学校の研修生が利根沼田森林管理署管内を訪れました。

当日は、利根沼田森林管理署において関東森林管理局の取組や利根沼田署の管内概要を説明した後、「いきもの村」で赤谷プロジェクトの概要や活動内容について、さらには、茂倉沢にある治山工事箇所、ダム中央部撤去の取り組みを説明しました。

研修生からは、インドと日本では

「地域」の捉え方、地方政府の階層や仕組みなどが大きく異なるので、詳細な質疑を求められたほか、官民協働の仕組みや地元と連携した森林環境教育への取り組みについては、非常に関心が高かったところであります。

インドの森林には四季の変化がなく緑が焦げ茶色しか存在しないとのことで、茂倉沢の紅葉には感嘆の声があがっていました。

茂倉沢治山事業・現地説明会の開催

11月10日(火)、茂倉沢の治山ダム中央部撤去工事について、報道関係者、県、漁業協同組合等約20名を対象に現地説明会を開催しました。

当日は、関東森林管理局から赤谷プロジェクトや茂倉沢治山事業の概要を説明した後、治山ダムの中央部撤去は溪流の上流と下流の連続性を確保し、自然本来の溪流環境の復元



熱心に説明を聞く出席者



治山ダムの中央部撤去工事等を説明

を目指すものであり、赤谷プロジェクトにおける自然再生の取り組みの一環であることを説明しました。また、治山ダムが本来持っている土砂の堆砂機能、防災機能についても解説しました。

参加者からは、防災面を考慮して下流に作設する保全工の設置理由などについて活発な質疑が相次ぎました。

今後は溪流環境復元と防災の両立を図るため、魚類等の生息環境への影響や土砂の移動状況などについてモニタリングを進めていく予定です。

(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)

「関東森林管理局国有林野等所在市町村長有志連絡協議会」を開催

関東森林管理局では、「開かれた国民の森林」の実現に向け、国有林野等の所在する地域の市町村長との意見・情報交換を目的とした会議を毎年開催しています。

本年度は11月20日(金)に東京都霞ヶ関の法曹会館において、各地域の代表市町村長11名参加の基、開催されました。

冒頭、局長から「国民視点に立った管理経営のために、多くのご指摘を頂きたい。」また、林野庁国有林野部長からは、「林業、ひいては地域活性化のため、忌憚のないご意見を頂きたい。」旨の挨拶がありました。

続いて、林野庁・局による事業説明の後、各事業や森林・林業施策等について活発な議論がなされました。

頂いた貴重な意見を基に、国民視点

に立った国有

林野の管理経

営に努めていきたいと考え

(企画調整室)





計画部 指導普及課

関東森林管理局では、地元の小学生を対象に「子ども樹木博士」の認定活動を実施しました。

「子ども樹木博士」は、子ども達が樹木とのふれあい体験を通じて樹木を知り、森林や自然環境などについて学び、樹木や森林に関心を持つとともに、自然を大切にする心を養うことを目的として、森林に関わる大学、研究所、団体及び個人で構成するボランティア団体「子ども樹木博士認定活動推進協議会」の下に運営されている「子ども樹木博士ネットワーク」が進めているプログラムです。

当森林管理局は、この活動の実施機関として登録しており、毎年2回認定活動を実施しています。

安中市立細野小学校

10月26日(月)安中市立細野小学校の3年生19人と4年生13人は、小根山森林公園(群馬森林管理局管内の安中市松井田町)内にあるコブシ、イロハカエデ、ホオノキなどの樹木について、名



小根山森林公園にて



局構内の樹木を利用して



前の由来や特徴などの説明を受け、その後「子ども樹木博士テスト」にチャレンジしました。

当日は、秋雨の降る寒い日でしたが、子どもたちは傘を差しながら熱心に説明を聞き、一生懸命メモをとるなど頑張った甲斐があつて、参加した全児童が認定を受けました。

11月5日(木)前橋市立岩神小学校の3年生61人が、当森林管理局敷地内にあるケヤキ、クロマツ、ブナなどの樹木のことや、森林には降った雨を浸透させて蓄える力があることなどを模型を使って楽しく勉強しました。

その後、大会議室に移動して「子ども樹木博士テスト」にチャレンジし、全児童が認定を受けました。

当森林管理局では、このような機会の提供を通じて、一人でも多くの子ども達に、樹木や自然に興味を持ち「森林を大切にしよう。」という優しい心を養ってもらえるよう活動しています。

前橋市立岩神小学校



森林整備部 治山課

治山研究会主催の治山研究発表会が11月4から5日に東京都代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、都道府県、森林管理局、コンサルタント会社等が参加しました。

発表は「治山計画、地すべりの取組」「緑化、森林造成・整備の取組」「斜面・溪流対策等の取組」「木材・現地発生材利用、環境への配慮等の取組」の4つのセッション別に計50課題が行われました。

当局では、大井川治山センターの坂所長補佐、相澤技術専門官により、第3セッション「斜面・溪流対策等の取組」の中で、「上千枚沢における治山ダムの機能強化対策」を発表しました。



大井川治山センター所長補佐

自然石を利用して機能強化対策を実施した治山ダム



下流の洗掘防止



放水路の摩耗防止

新任幹部を

紹介します。

12月1日付け(一)は前任

関東森林管理局

▽計画部 計画課長

(東北森林管理局 計画部 計画課長) 齋藤 哲

小笠原諸島の 世界自然遺産登録を 進めよう！

関東森林管理局 東京事務所

小笠原諸島母島への
エコツアーを実施

小笠原諸島は日本列島から約1000 km南の太平洋上に散在する30余りの島々で、そこには独自の進化を遂げた小笠原固有の希少な動植物が生息・生育しています。

日本政府は、この小笠原諸島を世界自然遺産に登録すべく、9月末に推薦書をユネスコへ仮提出しました。この推薦書には、推薦国としては初めてとなる推薦後3年間に取り組む外来種対策の目標を島毎に定めたアクションプランを添付しており、小笠原において、世界自然遺産としての価値を保全するために外来種対策を早急に取り組む必要があります。

東京事務所では、外来種の駆除や世界自然遺産登録を進めるために、小笠原母島観光協会等と共催し、関東一円と小笠原でボランティアを募集して「小笠原原生植生回復ボランティア in 母島・ハートVIII」を実施しました。

関東地方や遠くは大阪府から参加いただいた19名のボランティアは、11月5日に東京の竹芝桟橋を出発し、約28時間の船旅を経て6日母島に到

着しました。その後、皆さん船の疲れもなく、母島観光協会の案内で戦跡のある静沢の森遊歩道を散策しました。夕日の絶景ポイントでは、希に太陽が緑色に輝いたようにまたたくグリーンフラッシュを見ることができるとのことでしたが、6日は雲に遮られました。

11月7日、島のほぼ中央部に位置する桑の木山には、島内から12名のボランティアの皆さんとサポートスタッフ等総勢44名が集まりました。過去には、小笠原まで行きながら台風で作業ができなかった時もありましたが、今回は、天候にも恵まれ、実質的に7回目の開催となりました。

この作業地の外来種対策は、従前からボランティアの協力を得て取り組んでおり、今回は、アカギ小径木の伐倒、稚幼樹の抜き取り、近い将来その名のとおり「桑の木山」に回復することを願ってオガサワラグワなどの植栽を行いました。予定した原生植生の回復作業を精力的に取り



オガサワラグワなどを植栽



アカギ稚幼樹の抜き取り

組み、怪我することもなく無事終了することができました。交流会では、ハイビスカスの酢の物、タコノキの実の味噌など小笠原ならではの料理による歓迎と以前ボランティアの方が参加した折りに作った詩に島民の方が曲をつけて演奏するなどのサプライズもあり、大いに盛り上がり親睦を深めることができました。

11月8日の天候は晴れ、最高気温は28度。ボランティアの皆さんは、体験ダイビングや乳房山登山、アカギを材料にした箸作りに加え、夕方、夕日の絶景ポイントでは、幸運にも水平線上のわずかなすき間には雲が



ボランティアの皆さん



ハイビスカスの酢の物

かかっておらず、太陽が沈む間際グリーンフラッシュを観察するなど母島の自然を楽しみました。ハワイの言い伝えどおり皆幸せになれますように！

11月9日、母島からの船では、イルカのジャンプとカツオドリのダイブに歓声が上がりました。そして、10日に無事竹芝桟橋に帰ってきました。

今年の参加者は、昨年の参加者が友達を誘って参加していただけたことなどから、約1.5倍に増えました。一航海6日間の時間と約10万円の費用をかけてまでも参加していただけた理由、それは小笠原に対する熱い思いでした。そして、その思いは母島の皆さんと一体感を生み、世界自然遺産登録に向けて盛り上がり上がってきています。

ボランティアに参加していただいた皆様には、この紙面をお借りしてあらためて御礼申し上げます。



グリーンフラッシュ

私の視点

「国民の癒しの森づくりに一役」

草津森林療法協議会会長 山口昭夫

草津温泉は昔から健康づくりのお手伝いをしてきた温泉地です。

入浴者は遠方から草津を訪れ、江戸時代から長く続いている入浴方法を自然発生的に学び、その入浴法は改良を重ねながら現代へと続いています。

今、国においても長寿社会に対応すべく「癒し」「休養」「健康づくり」をテーマに様々な手法で地方自治体の支援を模索しています。



コマクサ学習で講師を務める著者



スキルアップ講座のひととき

草津町では既存の「温泉、観光、スポーツ」から、健康をキーワードに追加「温泉と森林を含む健康づくり」に注目し、今年、平成21年度森林セラピー基地に応募し、8月には生理検証が行われ、その結果は22年3月に発表予定となっています。

草津森林療法協議会は平成16年12月に草津町、草津温泉観光協会、吾妻森林管理署などで発足し、現在の会員数は120名で、これまでも「草津森の癒しトレーナー」の養成



ロイヤルコース(歩道)のチップ敷きでの参加者

や先進地の見学、地域での研修会、イベント等にとり組んできました。

特に「草津森の癒しトレーナー」の養成は、自然関係24時間、医療関係24時間の養成講習を開催し、草津町長から「歩み入る者にやすらぎを、去りゆく者に幸せを」の町民憲章、初代湯の華会会長市川薫さんの「もてなしの心」などユニークな講座、上原巖先生、降矢英成先生、地元の松岡、布施先生など各部門のエキスパートを招いて行い、これまで62人のトレーナーが誕生しました。

また、活動フィールドの整備としてロイヤルコース(歩道)のチップ敷きなどにも協力しています。

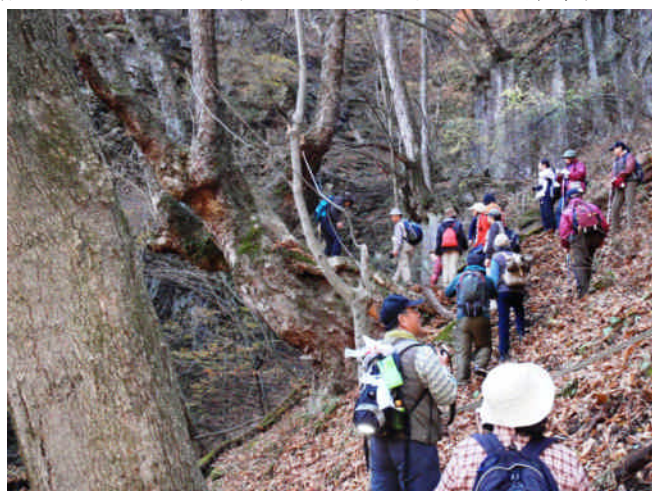
会のイベントは、春と秋に行う一般の方を対象とした「森の癒しと散

策」と、トレーナー等を対象とした「スキルアップ講座」です。

最近では草津町の健康づくりへの協力、イベントの参加、農林大学校や健康づくり大学への協力などです。

今後の課題は、全国有数の温泉地として、草津温泉旅館協同組合などと連携した森の癒しの実践活動の充実と森林セラピー基地として対応できる組織づくりです。

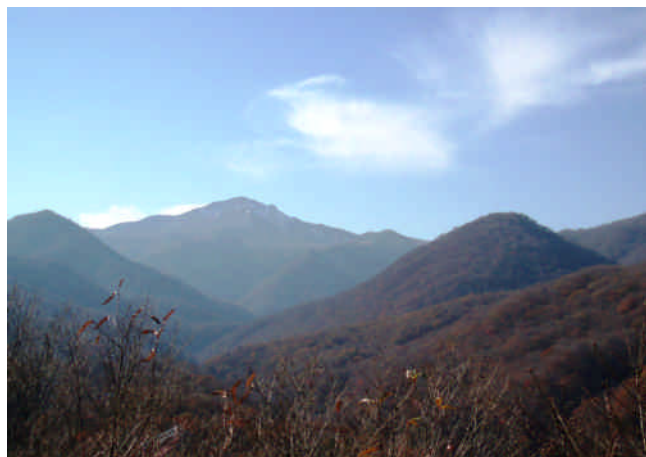
組織の課題としては、①会員の会費徴収の実現②草津、森の癒しトレーナーの充実③事務局体制の整備です。草津の周辺は全て国有林でその多くが国立公園特別地域です。「良好な自然を」維持しながら森の癒しに取り組んで行きたいと思っています。



スキルアップ講座(巨木の森のトチノキ)

森林官からのあたいり

福島森林管理署 白河支署 西郷森林事務所 森林官 大田 和行



雄大にそびえる甲子連山

私の勤務する西郷森林事務所は、福島県南部の白河市内（白河支署内）に所在し、東北地方で第2位の長さを誇る阿武隈川、その源流が流れる西郷村を中心とする国有林約5,200㍍を管理しています。

管理している国有林は地域によって特徴があり、西郷村北東部ではスギ・ヒノキ等の人工林が多く、一方、西部では日光国立公園や大川羽鳥県立自然公園といった指定地域があり、ブナなどの天然林が広く分布しています。

管内には自然豊かな山々があり、特に栃木県境には甲子山や旭岳といった標高1,500㍍を超える山が、甲子連山を形成しています。これらの山は登山道が整備され、地元山岳会が永きに亘って活動しており、毎年多くの登山者が訪れています。

阿武隈川源流沿いには、福島の遊歩道50選の一つである新甲子遊歩道があり、渓流を望みながら、春の新緑や秋の紅葉など自然を堪能することができます。また、途中には、「森の巨人たち百選」の一つとなっている「剣桂（けんかつら）」の大木があります。樹齢約370年、樹高約35mの雄大な姿を誇るこの木の名は、かつて出没する鬼神を剣をもって大木に封じた事に由来すると言われ、神の依り代として祀られています。



大勢で賑わうトンネルフリーウォーク

西郷村には、昨年9月に栃木県へ抜ける有料道路が無料化され、県内2位の長さとなる甲子トンネルが開通して、福島県の会津地方と直接行き来できるようになりました。開通前には記念事業のトンネルフリーウォークに3,000人以上の人が集まり賑わいを見せました。

管内には登山などの入林者が多いことから、遭難対策として、毎年夏と冬に消防や警察等と連携して遭難救助訓練が行われます。参加し感じたのは救助の困難さでした。救助へりは着陸場所が限られるうえ、濃霧時には飛行自体困難となります。負傷者の下山には5～6人がかりでも苦心します。地元山岳会の方の「救助は困難な場合も多い。だからこそ遭難・負傷を防ぐため、何より登山前の準備が大切だ。」という言葉が最も大切な事ではないかと感じました。

森林官は、地元との窓口であり、同時に守るべき国有林を最も身近に感じられる業務だと思います。これから先職務が変わっても、守るべき国有林の姿を決して忘れないように、日々の業務に取り組んでいきたいと思っています。



樹齢約370年の剣桂（けんかつら）

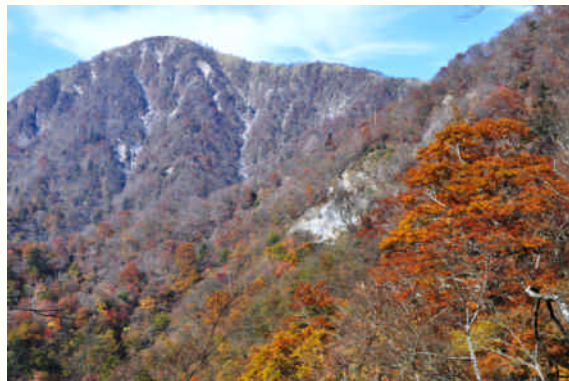
管内の百名山「丹沢山」

神奈川県屋根といわれる丹沢山地は、県北西部に位置する東西約40km、南北約20kmに及び山塊で、最高峰の蛭ヶ岳(1,673m)を始めとする六十数座もの千m級の山々が連なり、重なり合っています。

百名山の丹沢山(1,567m)は、この山塊に座していますが、「日本百名山」の著者はその中で、「私が百名山の一つに丹沢山を取り上げたのは、個々の峰ではなく、全体としての立派さからである」と著しています。そもそも、丹沢山とは、丹沢中央部に連なる山群の総称であったといわれています。



丹沢山塊(蛭ヶ岳)



蛭ヶ岳と黄葉

かつての山岳信仰の地も、今は国定公園等に指定され、憩いの場に。山塊の主脈に接する国有林も全域(約1,300ha)が丹沢自然休養林に指定され、多くの人々に親しまれています。

入山者数が年間30万人にも達し、首都圏の貴重なオアシスとなっている丹沢山塊ですが、近年、ブナの立枯れやシカの食害による林床植生の衰退、登山道周辺林内の踏圧による表土流出などの問題が顕在化しています。

このため、現在、東京神奈川森林管理署では、自然休養林に相応しい森林として整備することとして、土壌流出防止対策(丸太筋工)やシカ食害防止対策(柵設置)、間伐などに取り組んでいるところです。

早春のサクラソウに始まり、初夏のシロヤシオやサラサドウダン等の花々、霧氷の衣をまとう冬季と、四季を通じて訪れる者を魅了してやまない丹沢山塊。いつまでも人々の心に残る百名山であってほしいものです。



シロヤシオ



サラサドウダン

(東京神奈川森林管理署広報広聴連絡官)

編集所
FAX 027-2101159
TEL 027-2101158
総務課
関東森林管理局

メールマガジンを始めました。

関東森林管理局に関する情報につきましては、これまでのホームページ、広報誌等による提供に加え、12月から希望する方々のパソコン向けに直接電子メールにより情報提供するメールマガジン「関東森林管理局メールマガジン」を発行することになりました。

内容は、森林づくりに関する様々な話題や森林・林業に関するイベント情報などで、毎月月初めに発行します。

どなたでも無料でご利用いただけますので奮ってご登録ください。

メールマガジンの登録は、関東森林管理局ホームページから行えます。

アドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/koho/mailmaga/mailmaga.html>